

書評

『活きている銀河たち』

～銀河天文学入門～

富田晃彦著 恒星社厚生閣 2010年7月発行 3300円+税

私自身も著者と同じように教員養成系学部
の教員であるが、なかなか学生に銀河系や銀
河のことを教える時間が十分とれない。宇宙
像を得るためには銀河系や銀河の理解は必須
なのだが、通常の進め方では太陽系や恒星の
方にも時間がとられてしまい、なかなか銀河
までたどり着かないのだ。しかし、一方で新
しく中学校の学習指導要領では銀河系の存在
について触れられるようになってきた。これ
はわれわれにとっても望ましい方向である。
将来教員となる学生にも是非銀河を理解して
欲しい。でも見回してみてもそのような学生
向けの適当な本は数少ない。いずれも帯に短
したすきに長しという状態だ。そこで本書の
登場である。

本書はその中に書かれているように教育学
部の学部生や院生を意識したものである。資
料をふんだんに盛り込んだ知識の詰め合わせ
というよりも「天文学の方法」に重点がおか
れているのがうれしい。そして、著者をご存
知の方なら想像できようが、文章にも通常の
教科書でありがちな無味乾燥の堅苦しさがな
く、その試みは成功していると思われる。内
容的にも小型望遠鏡での銀河の見え方、アン
ドロメダ銀河の写真の説明として手前にある
銀河系内の星が重なって写っていること、星
座早見盤を模した銀河早見盤での銀河分布の
提示、重力でまとまると宇宙膨張から切り離
されることなど、本書を読む学生のレベルが
細かいところまで考慮されている。

では、本書のユニークな点を上げよう。ま
ず第一に暖かみのある手書きの図が大変ユニ
ークだ。まるで著者の大学の講義時間の板書
を見ているようだ。図の中に解説が入り込ん

でいる。数枚だけ、きちんと出版社側で書き
直されたような図もあるが、その場合は逆に
手書きの良さが失われ、かえって見にくくな
っている。このように読み取り方で書き込
んである図は他の本ではあまり見た事がない
が、一旦文章を読んだ後では図に全体が凝縮
されており、理解を助けるだろう。残念なが
ら一続きの図を2つに分割していたりしてい
るものや、図版がやや小さいこともあって見
づらい部分も決して少なくない。しかし、面
白い試みだ。

ユニークな点その2。それは随所に挟まれ
たコラムだろう。筆者の個人的な体験談がつ
めこまれている。天文台での雨の夜も結構忙
しいことや大学院生時代に教員から雷を落と
された話、論文発表での大間違いなどユーモ
アを含みながらも著者の天文学への熱意や真
剣さがひしひしと伝わってくる。

そしてユニークな点その3。銀河の写真や
表のほとんどがインターネット上で誰でもア
クセスできるDSSやNEDから著者自身が自
ら作成されたものである点だ。

些細なことであるが、距離の単位が光年
であったりパーセクであったりで統一されてい
ないところが見受けられたり、筆者の専門分
野である銀河での星形成の部分が他の記載に
比べて詳しくすぎるわりに、他と比べてやや説
明が不足していたりする点もある。でも上記
3つのユニークな点はそれを補って余りあり、
読者も是非一度手に取ってみられることを薦
める。

仲野誠（大分大学教育福祉科学部）